

BPW News Letter JAPAN

Official Newsletter of National Federation of Business and Professional Women's Club of JAPAN



2006.5.1

Vol.84

【特集】

第41回日本BPW連合会
『東京大会・総会』

CONTENTS

巻頭メッセージ
～新しいリーダーをめざして～
"New Dimensions of Leadership"
東京クラブ会長 安倍 陽子

東京大会報告
・第41回日本BPW連合会総会
・BPWパートナーシップイニシアチブ賞
・次回大会開催日程ご案内
・基調講演要旨
・ワークショップ報告
・猪口大臣からのメッセージ
・BPW各国からのメッセージ<抜粋>
・第3回ヤングスピーチコンテスト
全国大会審査結果

会報37号掲載広告ご協力一覧

編集後記

日本BPW連合会ニューズレター

発行人：黒崎伸子 広報委員会編集

日本BPW連合会 事務局

〒160-0023

東京都新宿区西新宿3-5-12-116

TEL.03-3348-7644

FAX.03-3348-7648

E-mail=info@bpw-japan.com

ホームページ URL

http://www.bpw-japan.com

～新しいリーダーをめざして～

"New Dimensions of Leadership"

BPW 東京クラブ会長 安倍 陽子



開花宣言の長崎・福岡から、雪の便りの北海道から、東京大会にご参加くださった皆様、本当にありがとうございました。主催者として、一人でも多くの参加を望んでおりました。一日目の一般公開も含めて、約150人の方々が参加してくださいました。

基調講演をお願いした松尾葉子さんは、「女性が指揮台にたつということ」のタイトルで、プザンソン指揮者コンクールでの優勝をバネに女性指揮者のトップランナーとして活躍するまでの体験をもとに「多くの困難に突き当たっても、その不運を幸運に変えていくパワー」がリーダーには大切であることを示唆してくださいました。

4つのグループに分かれてのワークショップは、参加者が出来るだけ議論に参加できるようにと、進行をそれぞれ工夫し、会員同士が役割を分担するなどして実りある成果を出せたと思います。これは例年、大会の重要イベントです。

また、3回目となった「ヤングスピーチコンテスト」は、各ブロックから選出された5人の若い人たちが女性と仕事をテーマに、何を考え行動しているかを熱烈にアピールしてくれました。年々、内容も充実し、今回は株資生堂が賞品をご提供くださいました。

この他、BPWの若者支援のひとつとしてスタートした「国連女性の地位委員会へのインターン派遣」プロジェクトでは、選考された大学生、大学院生、地方公務員の4人を大会の席で紹介することができました。これは、BPW連合会が国連経済社会理事会に一般協議資格を持っていることから可能となったものです。

懇親会では、猪口大臣のご出席を得て、男女共同参画担当大臣としての課題や抱負を直接伺うことが出来、4つの「ひ」は、当日の参加者は皆さん、インプットして帰られたかと思えます。

超多忙な大臣のご出席、これは、BPWメンバーの日頃の活動を評価してくださった賜なのです。

パートナーシップエバリュエーションに選ばれた新宿区の中山弘子区長は働く女性のための住みよい街づくりと同時に、東京というより日本でも屈指の繁華街・歌舞伎町を持つ新宿区の首長として、23区はじめての女性区長です。

懇親会で乾杯の音頭をとってくださった男女共同参画会議議員の古橋源六郎さんは友の会にご入会くださいましたし、株資生堂の岩田喜美枝さんはコンテストの審査・講評も引き受けてくださいました。

東京大会を支えてくださった皆様、お陰さまで成功裡に終わることが出来ました。ご協力ありがとうございました。

第 41 回日本BPW連合会東京大会・総会が、2006 年 2 月 18 日～19 日に、新宿の京王プラザホテルにて開催された。新しい統一テーマ“New Dimensions of Leadership” 新しいリーダーを目指して”を掲げ、基調講演は、「女性が指揮台にたつということ」というテーマで指揮者 松尾葉子氏に講演いただき、ワークショップでは、今回初のWS公募企画「BPWの組織の活性化のために<仙台・山形クラブ>」を含む 4 つのテーマで、活発な意見交換がおこなわれた。また、インターナショナルナイトセレモニーに、猪口国務大臣(男女共同参画担当)をお招きし、力強いメッセージを頂いた。2 日目の総会は、議事は全て議案どおり承認・表決され無事終了した。連合会総会後には友の会の総会・懇親会が開催された。

第 41 回日本BPW連合会総会

議長 安陪陽子(東京) 井上敦子(東京)
書記 寺岡則子(東京) 大野シマ(東京)
定数 70 出席 69

議事 (会報 37P7-21 参照)

- 第 1 号議案 議題の承認 栗林事務局長
第 8 号議案その他、選管の発表を提案
<拍手にて承認>
- 第 2 号議案 2005 年度事業報告 栗林事務局長
企画委員会報告 土田企画委員長
組織委員会報告 牟禮組織委員長(欠席) 木下副会長
広報委員会報告 佐藤広報委員長兼副会長
国際委員会報告 山野国際委員長
財務委員会報告 塩崎財務委員長
ヤング BPW 委員会報告 ニノ宮ヤング BPW 委員長
会報 P8 神戸クラブについて「再入会」の表現を「復会」に修正
<事業報告・委員会報告一括 拍手にて承認>
- 第 3 号議案 2005 年度会計報告・会計監査報告
2005 年度会計報告 藤田会計
2005 年度会計監査報告 高山会計監査
<会計報告・監査報告一括 拍手にて承認>
- 第 4 号議案 2006 年度統一テーマ(案)・活動方針案(案)について 黒崎連合会会長
<賛成: 68, 反対: 0, 棄権: 1>
- 第 5 号議案 2006 年度事業計画案(案) 栗林事務局長
<賛成: 68, 反対: 0, 棄権: 1>
- 第 6 号議案 2006 年度予算(案) 藤田会計
<賛成: 66, 反対: 3, 棄権: 0>
- 第 7 号議案 規約改正(案) 栗林事務局長
<賛成: 69, 反対: 0, 棄権: 0>
- 第 8 号議案 その他
選挙管理委員の選任 栗林事務局長
選挙管理委員発表。委員長は後日互選にて選出
北海道・東北ブロック/棚田美津子(山形)
関東・山梨ブロック/佐藤照江(関東)
中部ブロック/中西幸子(東海)
近畿ブロック/増山恒子(関西)
西日本ブロック/大木祥子(長崎)
<拍手にて承認～>

2006 BPW パートナシップ エバリュエーション賞 新宿区長 中山弘子氏

2006 年の BPW パートナシップ エバリュエーション賞は、新宿区長中山弘子氏に対して贈られました。



新宿区といえば、商業地区、ビジネス地区、居住区それに外国人の居住区などが混在する東京で最もダイナミックな行政区といわれています。巨大な都庁ビルがあり、超高層ビル群があり、日本最大の乗降客数を誇る新宿駅があり、盛り場・歌舞伎町のある新宿区。中山氏は、東京 23 区の中で唯一の女性区長としてこの行政を担っておられます。単に女性行政への取り組みだけではなく、暴力沙汰も報道される歌舞伎町の浄化に取り組むなど、女性リーダーのロールモデルとしても是非、頑張っていたきたい、お会いして応援したい、それが BPW 東京クラブ会員の率直な声でした。

都庁職員として、労働行政をふりだしに、子ども・女性行政、消費者行政、東京港埋立地の水辺と緑の回復事業、清掃事業、人事委員会、監査等多岐に携わって経験した後、2002 年政策決定者のポストに自ら挑戦し、23 区初の女性区長となる。就任後は男女共同参画政策に積極的に取り組んでいることを評価します。

これからも、女性も男性も暮らしやすい街づくり、働きやすい地域づくりを实践されますよう期待します。

次回の大会・総会へのご案内

第 42 回日本BPW連合会総会は、和歌山クラブが担当です。大勢のご参加をお待ちしています。
開催予定 2007 年 2 月 24-25 日 和歌山市内

BPW東京大会基調講演 「女性が指揮台に立つということ」 指揮者 松尾葉子氏

「女性が指揮台に立つということは、ずっと生意気ではないといけない。」

「自分の存在証明として音楽をやっているのだから、そんなときに男女の差別で不利な待遇をうけたくない。だから生意気でなくてはならないのです。」

セントラル愛知交響楽団首席客演指揮者の松尾葉子さんは笑顔でこうおっしゃいました。

女性が指揮者になるということが、職業の選択肢として考えられない時代に、パイオニアとしてその道を歩んでこられた松尾さんの基調講演は大変に快活で、迫力がありました。

名古屋生まれの松尾さんは高校時代まで名古屋で過ごし、大学入学とともに上京。幼いころより音楽家を志していたものの、はじめから指揮者を目指されていたわけではなく、指揮に巡り会うきっかけは、お茶ノ水女子大時代のことでした。大学2年生の学園祭でオペラの指揮をする機会があり、そこで指揮の魅力にとりつかれたそうです。昔からピアノの独奏というよりはオーケストラが好きだった松尾さんは指揮の勉強をすることを決意し、大学卒業後、東京芸術大学指揮科を受験。指揮科の募集枠が2名の狭き門を見事突破し、大学で指揮を学び始めました。

その当時、女性が指揮を学ぶことはできても、女性がプロとして活躍するのは男性にくらべて大変困難でした。女性の場合、プロのオーケストラで活躍しようと思うならば外国のコンクールで賞を受賞しているなどの経歴がない限り、不可能だったのです。そういう現状から、フランスへの留学を決意。プザンソン指揮者コンクールで女性としては史上はじめて、また日本人としては小澤征爾に次いで二人目の優勝という快挙を成し遂げられたのです。

1998年客演指揮者としてセントラル愛知交響楽団に携わり、1999年から5年間常任指揮者を務められ、2004年に首席客演指揮者に就任されて現在にいたっています。

指揮者に就任された当時、「女性であることのハンデは何？」とよく人に聞かれたといます。そんな時、不愉快に思いつつも、まじめに答えられていたそうです。今でもその種の質問はありますが、その場合、「そういう質問（「女性であることのハンデは何？」）をされること自体がハンデだと思う」とユーモアを込めてさらに相手に返しているそうです。

松尾さんは、とてもパワフルで、ユーモアのセンスに溢れ、学生時代は大学の先生を怒鳴る時もあるほど「生意気」にふるまってこられたとおっしゃっていま

した。自分が決めたことはどんなことがあっても自信をもって突き進むという強い信念をもっておられます。

「こんなにバイタリティーがあるなら、男にも負けないだろう」と周囲に認めさせることで、道なき荒野に道をつくる、こうして偉大な女性の指揮者が誕生したのです。

そんな松尾さんでも、指揮者の道を歩む上で壁にぶちあたったこともありましたが、他の人ができることはやりたくないと思い始めた松尾さんは、「なぜ自分が指揮をやらなくてはならないのか？他の人が指揮者をしていても変わらないのではないのか？」「自分の存在証明とは何なのか？」と悩み、一時は指揮をすることが嫌になったといます。そんないわばスランプの中で、ある日、松尾さん曰く「天罰」が下ったといます。

松尾さんは42歳の時、雨の日に買い物帰りに濡れた階段を下りていて、誤って肩から滑り落ち、右肩を脱臼するという事故にあいました。そのまま病院へ運ばれ、右肩を6週間固定しなくてはならないという事態に陥り、仕事がしばらくできなくなってしまいました。その怪我をしてから、松尾さんはいろいろ考えたといいます。そこで、自分自身を見つめ直し、今までは「音楽のために生きている」と思っていたけれども、その怪我で「生きるために音楽をやっている」ということに気付いたとそうです。生きていることが大事なのだ、と。

それ以降、スランプを抜け出し、精神的に強くなった松尾さんは指揮者としてさらにパワーアップされました。

「生意気」に自分の信念を曲げず、真っ直ぐ自分を信じて生きることで、女性が指揮者になれないといった世の中の認識を変えてきた松尾葉子さんのお話は、聞いている私たちにまでパワーを分け与えてくださいました。このような女性の生き方を、これから担う若い女性たちもしていかななくてはならないと感じました。

(まとめ / 富永奈奈 (BPW-S))



東京大会 ワークショップ報告

WS
A

ヤング企画:これからの女性の働き方
～多様性を求めて～

コーディネーター:二ノ宮寛子(ヤング委員長)
 発言者:澤田順(東京クラブ)
 記録・会場係 沓名 典子
 参加人数31名(内会員25名)

趣旨概要:働き方について、女性側だけでなく男性の視点を含め、働き方の多様性とは何かをグループワーク形式で議論。

[30代 40代の働き方トーク]

菊田(猿渡)英代子さん(仙台クラブ)

・夫婦別姓という切り口から生き方の多様性を語る。別姓である理由は、彼女自身のキャリア更新とのタイミングが大きく影響していた。姓だけでなく、家計や家など、お互い独立した生活スタイルを保っており、共有する時間を大切にしよう努力している。

雨宮千春さん(山梨クラブ)

・菊田さんと同様、夫婦がそれぞれの時間・空間を大切にしよう、心がけている。彼女自身が仕事を続けることに抵抗がなかったのは、母親も働く女性だったという、家庭環境が大きく影響している。子育てをしながら働く女性を援助したいと思っている。

澤田順さん(東京)

・最近ビジネススクールに通うなどキャリア中心の生活になり、今後も組織内にとどまるか、新しくビジネスを始めるかの過渡期にある。そのため、家庭とのバランスを保つのが難しい。このような悩みは日本だけでなく、キャリアアップをしようと試みる世界中の人たちに共有されている。

二ノ宮靖史さん(東京BPM)

・女性の働き方を考えるときには、ぜひ女性・男性の両方を含めた「人間の働き方」を出発点として、そこから女性の働き方を考える必要がある。それを基に、男性/女性に特徴的な問題を論じることが適切な議論の出発点ではないか。

[グループワーク]

方法:31名を5~6人×5グループに分ける。くじ引きで役割を決め、リーダーが中心となって、働き方について15分間話し合う。ただし、発言は1人3回まで。

[グループ毎の発表および参加者のコメント]

・『多様性』とは、教育・家庭・仕事の全ての領域で、個人を確立すること、そしてすべての人を認めていくこと。
 ・夫婦といえども別姓や別居という形をとっている人もおり、夫婦としての形も多様だと感じた。
 ・30代~40代の頃の自分の働き方を振り返ってみると、50代~60代のキャリアのベースになっている。若い人

たちは戦後の教育を通じて画一化されてきたといわれるが、実情では、多くの若い人たちは、『個性』という社会的キーワードに悩んでいる傾向も見られる。

・『多様性』の意味を改めて考えさせられる。多様性には白黒の両面があり、多様な社会を求めると、求めている人たちが犠牲となる。選択肢が多すぎて悩む若い人たちが存在するように。しかしながら、男性の働き方に合わせる形で職場環境を過ごしている女性も存在することを考えると、多様な社会が求められていることは間違いない。

・同じテーマ・トピックについて話しても、視点がまったく異なる。つまり、働き方にも30人いたら30通りの解決策が存在する。

・グループワークのおかげで、全員が等しく話すことができ、とても有意義だった。

[古橋源六郎さんコメント]

男女共同参画運動とは男女両方の運動であるのに、若い人たちはわりと興味を示さない。その理由の1つとして、就職の時点では男女がある程度等しく職を探すことができるように社会が成長してきたという現状がある。そういう意味では、今の若い人たちは以前と比べて恵まれている。しかし、これまで多くの経験をつんできた人たちと、若い人たちとの間に交流が少なく、また主婦の中にも共同参画に疑問を投げかける人たちが存在するため、共同参画の立ち遅れ感は否めない。菊田さんの夫婦別姓の話へのフィードバックとして、以下の3点が挙げられる。第1に、家族とは、個人ベースで作られるものであること。第2に、過度に依存しない協力体制が夫婦間に必要であること。最後に、父親が育児により多くの時間参加すること。これは子供のしつけや教育に寄与する。この家庭での多様性に加え、職場および地域社会での多様な生き方が大事である。

WS
B

これからのリーダーシップのあり方

コーディネーター:藤田ひろみ(会計)
 発言者:木下弓子(副会長)・平松昌子(前会長)
 記録・会場係 寺岡則子
 参加人数26名(内会員25名)

[今までの日本の女性リーダー]

・今までの日本の女性リーダーは、歴史上のリーダーとして男性側から判断されたものであった。また、女性リーダーの多くはバッシングを受けるなかでも不屈の精神を持ってやってきた。:土井たか子・高橋久子・市川房江
 ・女性自身が女性のリーダーを認めたらがないケースがある。
 ・女性社会の中の女性リーダーと男性社会の中の女性リーダーで認識の差異がある。

〔なぜ日本は女性リーダーが少ないのか〕

- ・女性が社会活動に参加した歴史が短いため、社会で形作られてきた問題解決への手段に女性がかかりにくい。(例えば、会社での5時以降の付き合い/根回しなどが昇進に結びつく。)
- ・教育・社会・家庭環境などの要因も影響している。
- ・リーダーになりたがらない女性がいる。(家庭・家事・機会・気持ちなど)

〔これから求められるリーダーの資質〕

人間的な内面の魅力を持つ人:最近では外見の魅力も。(最近のマスコミの態度を非難)
愛情とリスクを背負うことができる人
本人自身の哲学を有して信念をもって自分の感情をコントロールできる人
危機管理能力(先見性企画力)のある人
幅広い情報収集力(自己研鑽による)と、正しい判断力を基に政策を実施する力を有する人
個人だけでなく集団でも説得力を有する人
総合的实力(事業の開拓・採算性を見通し、実施に際して責任を果たす人)を有する人・人を見る目がある人
言動には裏づけがある人
孤独に絶える精神力がある人
財務管理のできる人

〔そのためにどうすればよいのか〕

自分がリーダーになるためには
リーダーを育てるためには

- ・目標を明確にし、他の人の意見を聞きながら、人を引っ張っていく。
- ・BPW が運動団体として活動し、先を見通して今後の活動を行っていく。
- ・良き直属上司(メンターの役割を担った先輩)が愛情を持って次世代のリーダーを育成する。
- ・相互関係(支えるケースなど):次世代のリーダーを育成&先輩のリーダーへの意見・提案
- 〔日本で女性総理を選出する場合は、誰を推薦するか〕
- ・土井たか子:3票・田中真紀子:2票・小池ゆり子:2票
- ・福島瑞穂・細川佳代子・平松昌子・赤松良子・桜井よし子・野田聖子:各1票・該当なし:9票

WS < C > 黒崎会長(左) 松原元副会長 右



働く女性に関わる法制度への提言

WS
C

コーディネーター:黒崎伸子(会長)
発言者:松原敏美(和歌山クラブ)
記録・会場係 鈴木ひろみ

参加人数 27 名(内会員24名)

1【松原氏の発言要旨】

(均等法の歩み)

1985 年 男女雇用機会均等法成立・・・逆風の中の妥協の産物であり、努力義務規定に終わった。

1997 年改正・・・法的義務化・問題点の積み残し

女性労働者の差別禁止規定のみ(諸外国では性差別禁止。双方向の差別禁止規定にすべき)

妊娠・出産を理由とする不利益取扱禁止規定を盛り込まず(母子の健康保護規定のみ)

間接差別の禁止是正の積み残し・・・例)コース別採用・雇用管理の残存

ポジティブアクション推進方策の積み残し

政府「男女雇用機会均等政策研究会」が発足し、平成18年1月28日改正要綱発表

同年 改正法案(3/7 閣議決定)が通常国会に提出される予定

(現状)

M字曲線解消せず 未婚女性の就職率は上昇するも育児年齢の離職多し

女性の労働者の5割は非正規就労

パート労働者の9割が女性であり、正規労働者の7割は男性

賃金格差66.5%(20年間で10%アップ) - パートの時間給は男性正規労働者の36.3%

管理職の9割以上は男性:M字理由の解消 両立困難の解消、M字解消 賃金格差解消

(要綱案の概要と改正を求める事項)

(女性労働者の立場から)

男女双方に対する差別の禁止(性別を理由とする差別の禁止)

間接差別の禁止の明記(実質的な結果の不平等の禁止)

セクハラ禁止規定の新設及び事業主に防止義務

妊娠、出産を理由とする不利益取扱禁止規定(背景は少子化対策)

使い勝手のいい紛争処理機構の措置:安い・速い・利用しやすい

2【グループワークでの討議内容】

(今回、盛り込まれなかったことに関する提案)

Q.均等法から20年以上が経過し、女性は働きやすくなったか?職場で性差別を意識するのは?

・管理職の登用少ない実態(女性自身の意識の低さも背

- 景に)・民間と公務員間の格差
- ・労働者の男女比差・事業主の女性管理職養成意識の欠如・総合職女性の就業継続の困難さ
- Q.女性の地位向上のためには、どの年代にターゲットを置いて解決すべきか?
- ・子育て世代の女性のサポート
- ・若い世代の職業を継続する意識の欠如 若い世代の意識改革
- ・社会の一員としての意識・プロ意識の醸成
- Q.現在の日本での雇用形態・日本人の働き方についてどう思うか?
- ・働くことの意味の意識付けを幼い頃から行う ・働くことによる人間的成長の大切さの見直し
- ・ライフワークにあった働き方の尊重
- ・同一労働同一賃金ラインの遵守 ・非正規社員への社会保障
- ・男性の育児休業取得への突破口を(賃金格差の解消をはかる)
- ・役割分担意識の改革 次世代育成支援対策推進法の施行
- Q. BPWは何をすべきか?何ができるか?
- ・運動の求心力を持たせる(M字の解消など明確な目標を、一つ定めて方策を考える)
- ・どう生きたいという目標の設定と問いかけ、教育
- ・均等法の基本理念の拡張(職業家庭生活両立の推進) 法律によるてこ入れ
- ・ワークライフバランスの考え方の推進
- ・女性の声と同じように反映される社会を作るための法律として、均等法を位置づける
- ・全ての労働者の長時間労働の是正など、働き方全体の見直し
- 3【全体のまとめ】
- ・「M字の解消」= 職業生活と家庭生活の両立であり、これは男女に共通して求められる。
- ・「どう生きるか」「どうやって生きるか」「どう働くか」などを男女ともに考え、これらを早期から教育でも取り組んでいく必要がある。

でスペシャリストになろうとする人を一本釣りで会員を増やしている。 会員同士が謙遜の美德はやめ、アガスケ(山形弁:出しゃばり=自己主張できる人)になることを目指している。 生活に密着した活動を心がけているなどの工夫をしている。大いに「利用される」ことで社会貢献していくポリシーを持っている。

(転換期にある発足 22 年目の仙台クラブの場合)

遠藤: 会が発足して 15 年は創成期～活動期で活発な活動が展開されたが、15 年以降は、今までのやり方では会員が増えず、転換期に差し掛かっている。問題点として 会員を広げすぎた。会員数が増えれば良いというものではない、会員の質が変わった、「働く女性の地位向上」という漠然としたテーマのため活動がみえにくい、会員になってほしい 30～40 代の世代が超多忙である、制度が整備されるにつれ、若い人にジェンダーの問題が見えにくくなっている、矛盾を抱えている。例えば、同一賃金・同一価値労働というときに管理者である会員と雇用者の立場の会員の中で矛盾が生じやすい。今後の課題として、他の団体がない特化した活動を展開する必要があるのではないかと。国連の経済社会理事会の諮問機関であることは、国連に意見を反映できるという点で特化できる活動の 1 つになるのではないかと。

深野: 設立当初は、志を一にした素晴らしい先輩に囲まれ活動に誇りを持つことが出来た。22 年たち、今までの活動の展開の方法では限界を感じている。モチベーションの高い組織を維持するためには、会員数が減っても、時には思い切った再構築が必要ではないかと。

グループ討議

(各クラブの現状と課題)

- 高齡化とメンバーが固定化して他の人が入りにくい
- 活動の目的があいまいである。形の見える活動が展開できていないのではないかと
- 会員が忙しすぎて、例会に参加できない
- 社会的に PR 不足
- 会費が高い(特にヤングにとって)
- 目的が特化された他女性団体の増加
- (活性化のための取り組み・提案)

BPW の存在意義の再確認・活動を特化し、目に見える活動の展開が必要・ブロック会議などで各クラブの地域性を生かした独自の活動を認めていく・ワークショップの時間を増やしてとことん討議する時間をつくる・オークションで得た収入でヤングをサポート・BPW を効果的に社会に PR する必要性・少人数であっても地域で空白地帯がないようにクラブを設立する活動を・会員数を増やすよりも目的意識の高い会員の質が大切ではないかと。

| | |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| WS D | BPW の組織の活性化のために (公募企画: 仙台・山形クラブ) |
| | コーディネーター: 布柴靖枝(副会長・仙台会長) 発言者: 棚田美津子(山形会長)・深野せつ子(仙台副会長)・遠藤恵子(仙台副会長) 記録・会場係 木村ひろ子 参加人数 31名(内会員31名) |

問題提起者より
 (山形クラブ会員が生き生きと活動している理由)
 棚田: 会員は、有名人やエリートでなく、一般の会社

猪口邦子大臣からのメッセージ

本日は、第41回日本BPW連合会東京大会の開催、おめでとうございます。

昨年、男女共同参画担当大臣に任命され、さまざまな政策実施や改善に努めているところです。公務で忙しかったのですが、どうしても、このBPWのようなみなさんの協力を必要としていると考え、本日はごあいさつをさせていただくことにしました。



さて、ご存知のとおり、1999年男女共同参画基本法が制定され、それに基づき5年間を見据えての基本計画が出されました。法の整備というのは、とても重要なものですし、それによって実際の政策・行動が開始できるということです。あれから5年が経過し、この男女共同参画基本計画の改定する時期となりました。これに関する担当大臣となったことは、議員になる前から古橋先生などいっしょにこの問題に取り組んでいましたので、とてもやりがいのあることと思いました。また、その前後から、「ジェンダー」という言葉に対するさまざまな揺り動かし・抵抗があったにもかかわらず、改定基本計画の中でこれを「社会的性差別」と定義して、この概念を明確にできたことは評価したいと思っています。

いずれにしても、このような法律や計画ができて、政策を推し進めていくには、いろいろな人の力が結集していなくては、夢は実現できません。そういう意味で、ここにいる方々と連帯できることは嬉しく思います。

最近、4つの「ひ」が女性には必要ではないかと思っています。

まず、“**怯まない!**”…私は大学で勉強したことを実社会で生かすことを考えていたのですが、恩師から研究者になることや留学などの話をいただきました。「私は、そんな玉ではない」とお断りしようかと思ったのですが、このチャンスを利用するのも私の役目かも知れないと思いました。そうです。昨年の選挙も、思いがけないことでしたが、本当に政策を行っていく場に入ること自分の目標を達成できると思って、立候補を決意しました。おかげさまで、こうして皆様に男女共同参画・少子化担当大臣としてお会いすることができました。

次に、“**僻まない!**”…女性だけに限ったことではありませんが、自分が思い通りに認められないことを僻んでしまうことがあります。私の今回の選挙にしても、大臣になったことにしても、一部にそのような方がいたと聞いています。でも、人の評価に一喜一憂して無駄なエネルギーを使うのではなく、もっと目標を高く持って仕事をして頂きたいと思っています。

“**引っ張らない!**”…さきほどの事にもつながりますが、よく、「女性が女性の足を引っ張る」と言われます。同じ目的に向かうのですから、決して、このようなことは損です。力を合わせていきましょう。

“**引き上げる!**”…そして、BPWのみなさんには特にお願いしたいのですが、ぜひ、同じ女性の仲間を引き上げ、人を育ててください。これが将来につながると思います。

BPWのみなさん、私も少子化・男女共同参画担当大臣として、一生懸命がんばりますので、ぜひ、よろしくご協力下さい。

BPWのますますの活躍・発展をお祈りいたします。

BPW 各国から送られたメッセージ<抜粋>

親愛なるBPWへ、ウルスラ・シュミッド/BPWスイス・ダボス

ダボスBPWクラブは今年50周年を迎えました。スイス・ダボスBPWは50人のメンバーを有するクラブです。ダボスは標高1560メートルに位置する有名な観光リゾート地で、特にウィンターリゾートとして色々な健康施設も完備しており、人気を博しております。又毎年一月にダボス会議として知られる世界経済フォーラムが開かれる所として知られています。BPW会員の職業は土地の特徴を反映して、ホテルをはじめとするツーリズム、ショップ、銀行、官庁、学校、クリニックなどの各種医療サービス従事者です。今年の目標は会員ネットワークの再構築と若い会員に力を入れることです。特に50周年記念として若い音楽家のコンサートの企画や、ホテル、レストランでの若い従業員の就業コンテスト、地域の子どものクリニック振興等々、色々な企画を考えています。今当クラブはネパール、コンゴ/キンシャサと特に連携を保っており、昨年の世界大会の間、ダボスに滞在されていました。

BPW ニュージーランド 会長 アニタ・ディヴィッチ

当クラブのインターナショナルナイトは当地の夏の2月おこないます。夜9時すぎまで明るい真夏の夕、白夜にゆれるキャンドルの光は忘れられないものになっています。テーブルは色分けされたキャンドルで彩られ、それと共に必ず一つのテーブルにはBPWニュージーランドの忘れられないメンバーであったレナ・フィリップス博士の写真が、我が国婦人参政権生みの親であるケイト・シェパードの名前を冠せられた白い大輪の椿の花に飾られて置かれます。会員は順番に我が国と各国BPWの会長からのメッセージを読み上げます。各国の名前が読み上げられると会員は順番に進んで時には家族と共にキャンドルに火を点していくのが我がニュージーランドBPW流キャンドルセレモニーです。各国のキャンドルには何らかのその国に由来したものを飾り付けてあります。あるクラブでは、我が国が移民で成り立つ国という認識を新たにす為に分達の先祖の国の衣装を着て登場することを薦めたりもしています。わがニュージーランドクラブはこうしてキャンドルセレモニーの特別な夜に世界的に重要な職にあるゲストをお呼びしてのディナーは、ある会員にとっては初めての国際体験ともなる訳です。

**第3回ヤングスピーチコンテスト
全国大会審査結果**

最優秀賞

中島 妃予理さん(中部代表)
「私の仕事と生きがい」

連合会会長賞

野村 慶子さん(関東・山梨代表)
「一人のダンサーとして、またダンス師としての使命」

ヤングBPW賞

スウ ユウさん(北海道・東北代表)
「私と仕事」
平井 淳子さん(近畿代表)
「私と仕事」
森 咲子さん(西日本代表)
「私にとっての男女共同参画 - 私と仕事・職業 - 」

審査の経緯

ゲスト審査員に、男女共同参画会議議員：古橋源六郎氏及び(株)資生堂取締役執行役員：岩田喜美枝氏を迎え、各クラブ会長らによる投票で審査を行いました。

中国出身で苦小牧で大学に通っているスウ ユウさんは二つの文化の狭間での体験から、日本と中国の掛け橋になる将来を描き、ダンスに生きる野村慶子さんは登校拒否、病気による聴力の喪失を克服するエネルギーとなったダンスを通して生きる決意をするまでの体験を、中部代表の中島妃予理さんは保育士としての日常をパワフルに、和歌山で地方公務員としての仕事を通して生き方を訴えた平井淳子さん、西日本ブロックの森咲子さんは自営業を営む女性としての体験を熱く語りました。

今回は、参加者のほとんどが会場でコンテスト出場者の発表に耳を傾け、感動に涙を誘われる姿も見られました。(株)資生堂の岩田喜美枝さんも、「若い皆さんのすばらしい挑戦に感動しました」と顔を紅潮されてコメントしてくださいました。

会報37号広告掲載一覧

ご協力ありがとうございました

| クラブ | 掲載広告名 | 枠 | 掲載頁 |
|-----|---------------------|----|-----|
| 札幌 | BPW札幌クラブ | 2W | 41 |
| 旭川 | BPW 旭川クラブ | 2W | 34 |
| 苫小牧 | BPW 苫小牧クラブ | 2W | 42 |
| 青森 | BPW 青森クラブ | 2W | 43 |
| 仙台 | BPW 仙台クラブ | 1P | 22 |
| | DICT 統合カウンセリング研究所 | 1P | 54 |
| 山形 | BPW 山形クラブ | 2W | 44 |
| 東京 | サリダ・アド | 1P | 表 2 |
| | シグマ工房 | 1W | 28 |
| | プチポアン(久家道子エンプロイダラー) | 1W | 67 |
| | 栗林社会保険労務士事務所 | 1W | 23 |
| | 千葉プリント企画 | 1W | 40 |
| | タカギ | 1P | 66 |
| | お好み焼き つばさ | 1W | 26 |
| | 森の玉手箱 | 1P | 94 |
| 武蔵野 | BPW 武蔵野クラブ | 2W | 45 |
| 関東 | BPW 関東クラブ | 2W | 24 |
| | 細川民族舞踏研究会 | 1P | 86 |
| 山梨 | BPW 山梨クラブ | 2W | 35 |
| 名古屋 | BPW 名古屋クラブ | 2W | 37 |
| 東海 | BPW 東海クラブ | 1P | 58 |
| | 高野医院 | 1W | 46 |
| 愛知 | 税理士 加藤歌子 税理士 吉田典保 | 1W | 47 |
| | スタジオ アーバン | 1W | 68 |
| 岐阜 | BPW 岐阜クラブ | 2W | 36 |
| 京都 | BPW 京都クラブ | 2W | 48 |
| 大阪 | BPW 大阪クラブ | 2W | 25 |
| 堺 | BPW 堺クラブ | 2W | 49 |
| 関西 | BPW 関西クラブ | 2W | 50 |
| 神戸 | BPW 神戸クラブ | 2W | 27 |
| 和歌山 | BPW 和歌山クラブ | 1P | 38 |
| 香川 | BPW 香川クラブ | 2W | 51 |
| 福岡 | BPW 福岡クラブ | 2W | 52 |
| 北九州 | BPW 北九州クラブ | 2W | 29 |
| 長崎 | BPW ながさきクラブ | 2W | 30 |
| | 女性議員をふやそう・ながさき | 1W | 53 |
| 連合会 | BPW の活動に参加しませんか | 1P | 表 3 |

日本 BPW 連合会 2006 年振込先ご案内

会報広告費振込先：郵便局 口座記号 10130 番号 43754401
口座名義 日本 BPW 連合会 広報 佐藤道子
連合会会費振込先：みずほ銀行 新橋支店 普通預金 1306469
口座名義 日本 BPW 連合会 会計 藤田ひろみ

編集後記 会報制作にあたり、メールでの入稿及び広告掲載にご協力いただきありがとうございました。連合会第41回総会・東京大会の様様をお伝えする特集号としては遅い発行となりましたことをお詫び申し上げます。